

第1回総合計画・復興計画策定検討部会における委員からの主な発言等

< 部会長あいさつ >

No.	氏名	発言内容
1	川崎部会長	今回の総合計画は福島県政だけでなく県民の生活を左右する重要なものと認識している。その計画の策定にあたっては、被災地・被災者などの実態を正確に捉えることが重要だと考えている。各委員の専門性を生かして、福島県の実態を踏まえながら議論を深めていきたい。

< (1) 新たな総合計画の策定について >

No.	氏名	発言内容	応答内容等
1	岩瀬委員	この部会では、総合計画の「基本目標」「県づくりの柱」「政策分野別の基本方向」「主要施策」のうち、どこまでを検討の対象とするのか。	基本的には「基本目標」から「主要施策」まで全て議論いただく予定。(半澤課長)
2	今野委員	「7つの生活圏の特性を検証する」という文言に関して、県内で独自に都市間連携を進めている市町村が存在していることを踏まえると、県の総合計画の策定にあたっては、そういった市町村の動きと齟齬が生じないように配慮しなければ、総合計画の実効性が欠けると思われる。今後のスケジュールでは、市町村との意見交換を行うことが示されているので、丁寧に行っていただきたい。各市町村が、県の計画に対して理解を示してくれることが大切。	現在の生活圏域をまたぐような取組が、今後も展開されていくことを見通して「検証」という文言を用いたところ。新たな計画の策定にあたっては各市町村の動きも踏まえていきたい。(半澤課長)
3	川崎部会長	他の都道府県でも地域別の計画を策定していることはあるが、「生活圏」毎の計画を策定していることはあまり見られない。今後はこの「生活圏」をどのように取り扱うのかについても議論を深めていきたい。	-
4	福迫委員	「7つの生活圏」という形が変われば、振興局の統廃合など、県の在り方も変わってくると思われる。場合によっては、縦軸や横軸での新たな枠組みなども考えられるが、その時にこそ市町村との連携が必要になってくると思う。新たな計画の策定にあたって、事務局としては前例と同じ形を踏襲することを考えているのか。	新たな計画の形としては、細部での違いは生じる可能性もあるが、おおまかには前例と同じ形を想定している。市町村との連携という観点については、総合計画の下に位置づける部門別計画や個別計画、又は地方創生の総合戦略などによっても整合性をとりたいと考えている。(半澤課長)
5	西崎委員	普段生活している中では、県の総合計画は遠い存在である。総合計画を新たに策定したとしても、自分の生活がどのように変化するのか実感がもてないというのが現状。そのため、新たな計画の策定にあたっては、その重要性をいかにして県民に認識してもらうかが課題だと考えている。	-
6	西崎委員	「生活圏」という言葉について、県民が日常で使用する意味合いとは異なると思われるので、その意味するところについては今後確認していきたい。「留意すべき重要な視点」として示された文言についても、その意図するところについて共通の認識を持つことが必要だと思う。	-
7	松澤委員	これまでの生活の中で「生活圏」というものを意識したことはなかった。生活圏を設定する意義や目的、生活圏の設定の方法などについて、改めて検証する必要があると思う。また、計画の中でSDGsを掲げるのであれば、SDGsの各項目について更に議論を深めていく必要があると思う。	-
8	前澤委員	「人材や産業の育成」という項目に興味がある。計画を策定して終わりではなく、その成果の部分にまで注目できるようなものにしていきたい。	-

No.	氏名	発言内容	応答内容等
9	岩崎委員	今後も人口減少が進行していく中、特に小規模市町村においては、将来を見通した計画を立てることは困難になりつつある。そうした中、県において総合計画を策定するにあたっては、各市町村の指針や希望となるような計画を策定していく必要があると考えている。人口減少が進む中でも、各自治体を維持していくための新たな仕組みを提示できるとよい。その過程で大事なものが「圏域」と「多層性」という概念だと思う。	-
10	川崎部会長	「7つの生活圏」という概念が生まれた当時の福島県の状況と、現在の福島県の実態は大きく異なると思う。それに伴って、生活圏のとらえ方も異なってくるはず。改めて、生活圏の在り方を考える必要があると考える。	-
11	川崎部会長	「30年後の将来を見据えつつ、10年後に目指す姿」を計画するとのことだが、今回の部会では「30年後の将来」を議論するのではなく、「10年後に目指す姿」を話し合うという理解でよろしいか。	30年後の将来像は人それぞれだと考えている。その中で、10年後はどうすべきかという、目指すべき姿を計画に反映していきたい。 (半澤課長) 議論を進めていくうえで、30年後の将来の姿を共有することは想定していない。この文言には、「今の子どもたちに引継いでいきたい社会を築くために、次の10年間でどうするか」という、意味合いが込められている。(橋政策監)
12	岩瀬委員	「将来像」という文言を用いられると、具体的な目標に向かってステップを重ねて取組んでいくというイメージを持つ。総合計画が概念的な目標を示すものであるならば、「将来像」という言葉のままでは誤解を招く恐れがあるのでは。「目指すところ」、「目指す視点」などでもよいのでは。現在の計画に記されている項目は重要なことで、次の計画にも同様の内容は盛り込むべきだとは思いますが、指標で管理できるものばかりではないということを踏まえるべき。	補足の形で付け加えさせていただくと、私たちにまずできることは、未来先取り型の計画を作成することではなく、現在の実態を正確に捉えた計画を作成することである。(川崎部会長)
13	福迫委員	他の自治体では、総合計画の中にそもそも基本目標や目指す都市像を盛り込むべきか否かという議論を行っているところもあるが、将来像がなければ計画を策定する意味もなくなってくるという意見もある。特に県においては、各市町村の動きや圏域の取組みなども踏まえると総花的にならざるを得ないと思うが、総合計画にどこまで盛り込むのかなど、現時点で考えはあるか。	総合計画を身近に感じてもらうことと、具体的な施策を計画に盛り込むことは表裏一体の関係にあるもので、どこまで記載するかは悩ましいところ。また、県の計画と、市町村の計画にはそれぞれ役割があると考えている。こうした観点を踏まえて計画の策定にあたっていきたいと考えている。 (山田副課長)
14	福迫委員	総合計画の成果について、KPIなどによる評価にこだわりすぎると、そもそも記載できる項目が少なくなってしまうという危惧があるが、事務局としてはどのように考えているか。	現在は170を超える指標を用いて進行管理を行っているが、この手法については事務局内でも議論を行っているところ。指標の項目を総合計画にふさわしいものに限定する、10年後の目標に加え5年後(中間)の目標を定める、など、今後の議論を深めていきたい。 (山田副課長)

< (2) 新たな総合計画と部門別計画・個別計画との関係について >

No.	氏名	発言内容	応答内容等
1	岩瀬委員	個別計画や部門別計画を作成した後、各計画の評価と総合計画の評価の取りまとめについてはどのように管理していく予定か。	現在、総合計画の各施策に関する評価等については、各組織の計画に関する評価とあわせて、担当部局を割り振って行っているところであり、次期計画においても、同様の整理が必要と考えている。(半澤課長)

< (3) 新たな総合計画に係る県民等への広報・意見聴取方法について >

No.	氏名	発言内容	応答内容等
1	西崎委員	ワークショップについて、特に県の総合計画のような身近ではないものが対象となるので、参加するまでのハードルをどのように下げていくかが重要。また、意見の聴取については、計画の策定段階だけではなく、計画策定後も同様の機会を設けていくことが大切だと感じている。	ワークショップについては、県民の方々に総合計画を身近に感じていただくための重要な機会になると思われるので、是非開催させていただきたい。(山田副課長)
2	今野委員	県民の方に総合計画を身近に感じてもらうためには、知事が言うところの「危機意識」という視点から、計画の策定による県民への影響、今の不利益を軽減し利益に変えることや、メリット・デメリットをわかりやすく伝えていくことも大切になってくると考える。	-
3	松澤委員	総合計画の作成等にあたって、これまでに同様のワークショップなどを開催した経験はあるか。またホームページによる広報を行うとのことだが、閲覧数はどの程度か。	ワークショップについては、過去(前々回)の計画策定にあたって、特定の地域で開催したことはあるが、全県的なものとしては今回が初めてになる予定。(山田副課長) 復興ポータルサイト全体の閲覧数としては年平均240万回程度、月平均20万程度。近年の傾向としては、外国語版の閲覧数が伸びている。(半澤課長)

< (4) 地域別構想の取扱いに関する基本的な考え方 >

No.	氏名	発言内容	応答内容等
1	福迫委員	「広域連携については、現計画以上に”意識する”」との文言があるが、「意識する」という言葉の意味するところについて教えていただきたい。	現状では、事務局内で確定的な見解は決まっていないが、時代潮流なども踏まえて見据えていきたいというところ。今後、委員の方々と議論を深めていきたい。(半澤課長)